

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

現在 会員数 173 名
1 月 地区 278 名
1 月 地区 51 名
元 子 地区 (合計) (502 名)

元 年 1 月 号 (198 号)
元 年 1 月 号 (198 号)
根 編 集 者 萃 岳
中 村 愛 岳

新年のごあいさつ

会長 根岸 岳萃

一九八九年の輝く新春をご家族共々迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。今年も亦楽しく吟道に活躍されますことを期待しております。私、昨年松井岳洋先生ご勇退のあとをうけつぐように、総本部理事に選出され、東に西にと、全国の吟友の吟道活動のお手伝いに飛び廻っておりますが、これも自分のうしろには、碩心会五百余名の会員の皆さんの、力強い後楯があるという意識に支えられております。

経済大国などと言われ、すっかり有頂天になっている日本ですが、反面、ともすれば精神文化の失なわれている現在の状態です。又、今年は県本部三十五周年大会の大行事も控えておりますが、皆さんが今年も充分健康に注意され、益々吟道に精進され、地域社会の浄化と、精神文化の向上に、おおいに活躍され、『和合団結』の輪を、益々大きくしていただくことをお願いして、新年のごあいさつといたします。

今年もがんばりましょう

(指導者一同より)

松井岳洋	根岸岳萃	加藤岳相
小峯桜岳	三井岳瓏	沼田洗岳
井沢潮岳	加藤圭岳	中村幸岳
竹石憲岳	千葉颯岳	千葉香岳
中村愛岳	森田暁岳	岩崎恵岳
鈴木孝岳	守谷崇岳	松野宝岳
杉山雪岳	秋元梁岳	鈴木萃岳
佐藤湧岳	矢嶋悦岳	黒崎李岳
広瀬翔岳	村田滯岳	石渡桂岳
沼田義岳	清水耀岳	伊藤峰岳
白井寿岳	白井麗岳	上村象岳
渡辺誠岳	一柳道岳	佐久間爽岳
木村松岳	寺脇歌風	立沢御風
行谷佳風	小形雄風	宇都宮徳風
千葉美風	松井正風	(名簿順)

◎64年度 行事予定

(総本部関係)

3・19(日) 95回全国大会……明治神宮記念館
7・9(日) 全国選抜者大会……九段会館
7・29(土) 九段会館
7・30(日) 夏期吟道講座……千代田公会堂
10・8(日) 96回全国大会……石川厚生年金会館

(神奈川県本部関係)

- 1・29(日)初吟会・理事会：横須賀孔雀苑
- 2・19(日)八段審査会：平塚農業会館
- 2・26(日)皆伝以上審査会：平塚農業会館
- 4・16(日)全国選抜予選会(神・静地区)
……平塚農業会館
- 5・14(日)定期総会：……京浜地区
- 8・6(日)指導者講習会：……防衛大学
- 9・17(日)35周年吟道大会：横須賀文化会館
- 10・7(土)10・10(火)全国大会参加吟行会
……(金沢・福井・佐渡)
- 11・19(日)七・八段研修会：平塚農業会館
- 11・23(祝)皆伝以上研修会：平塚農業会館
- 11・25(土)納吟会・理事会：横須賀第一地区

◎ 高段者審査会のお知らせ

八 段：2月19日(日) 受付9時
皆伝以上：2月26日(日) 開始9時30分

審査会場 平塚農業会館

受審料 二千元(当日受付に納入)

- ・昼食は各自持参
- ・合格された方は許証料を許証部中
村幸岳方へなるべく早目に。

◎ 碩心会指導者講習会

とき・元年1月30日(月)6時30分より
ところ・桜山下会館

常任理事会議事録

日時 63年12月27日(火)
場所 六代御前社務所

一、県本部費の値上げについて
去る十一月二十六日、県本部最終理事会に於て、次の通り県本部費の値上げ案が上程され、一月二十九日に開催される初理事会に於て決議されることとなった。
会費は一人月額二百円(改正前百円)とし、高齢者及び身障者は月額百円(改正前免除)とする。なお義務教育修了前の会費は月額二十円で改正前と同じ。

(改正は平成元年4月1日予定)

二、副会長の職務分担制について

加藤圭岳(総務・許証・企画・会計部)

小峯桜岳(教務・広報部・三地区)

各々の部、地区の総括として担当することとなった。

三、皆伝会の発足について

別添皆伝会々則により、63年11月1日付にて発足することとなり、初会合を3月5日(日)に開催することとされた。

四、各部連絡会(全体会議)の開催について

本部理事(副部長・副地区長)以上の会議開催について、今後「各部連絡会」と称

し、年一回以上の全体会議を開催することとされた。

五、連絡事項(総本部関係)

許証料の改定

準師範位 一万円

師範位 二万円

正師範位 三万円

上席師範位 五万円

(なお師範位研修講座料は無料とする)

六、少年・少女の会費及び

許証料の改定

少年・少女(義務教育)：会費五百円

(改定前免除)

右同じくの許証料：規定料の半額

(改定前免除)

(施行・元年4月から) 以上

総務部からのお願い

総務部長 加藤圭岳

五十五年四月に、総務部の業務を担当いたしました本年で九年目を迎えます。この間、諸先輩のご指導と、会員各位のご協力を得て、恙なく業務を遂行できましたことを深く感謝申し上げます。

さて、私が担当いたしました業務のうち、入・退会等諸手続について特にお願

いたしたい事項について申し上げますので、ご留意の上、手続方よろしくお願いいたします。

(一) 入・退会・変更届等の提出等について

(1) 提出について

毎月一日付にて「月報」に発表されますので、月末（原稿締切）迄に総務部長に提出願います。他の人を経て書類が送達されますと、遅延をきたすと共に、事務処理に不具合をきたすおそれがありますので充分ご留意下さい。

(2) 記載について

各項目はそれぞれ漏れなく記載して下さい。

◎ 入・退会届の提出日、入・退会年月日は必ず記載して下さい。

◎ 氏名については、フリガナをつけ、楷書でハッキリと記入して下さい。氏名は一度総本部に登録されますと、許証、その他の手続は一切登録名を使用しなければなりません。間違つて登録されますと、改めて氏名変更等の手続を要することになりますので、氏名については特に留意して記載して下さい。

◎ 名簿番号について、退会届の名簿番号は傾心会々員名簿の整理番号です。書類の整理手続に必要となりますので必ず記入

して下さい。

(3) 総本部への登録について

当会では毎年三月（春季）九月（秋季）に審査会が行なわれます。はじめての受審に当っては、入会後六カ月を経過していることが条件になっております。したがって、三月に受審される方は、前年の十月一日付、九月に受審される方は四月一日付で、それぞれ総本部に入会手続をすませた方が有資格者となります。総本部への手続については、県本部の事務局において、各会の該当者分をとりまとめ、一括して名簿並びに会費を総本部へ提出、納入することになり、事務手続に相当の日程を要します。入会後、春季、秋季に受審される方については、このことに特にご留意をいただき、四月、十月の総本部登録時に入会される会員についての入会届の提出は、四月は前年の九月三十日、十月は三月三十一日までそれぞれ入会届を総務部長に提出されるよう、特段のご配慮をお願いいたします。（手続完了後に入会届を送達された場合は六カ月遅れて、爾後の審査となります。）

(二) 会費の納入について

六十三年十月号の月報「傾心」でお知らせいたしました通り、入会届と共に総本部費、県本部費、傾心会費（入会月に応じて

を納入していただくことになっております。各支部長さんは、この表をコピーして、お手許に備え付けるなどして、合計金額を忘れずに納入して下さい。（常任理事会議事録の通り、県本部費の値上げ・総本部費の一部改正が元年4月より施行される予定ですが「納入額一覧表」は改定し、おつてお知らせいたします。）

以上、本年もよろしくご協力をお願いいたします。

「青春」の詩

昨年福島での全国大会、同じく綾瀬での県大会に、光野岳延先生の「青春」の詩の朗詠を聞かせていただいた。私は詩文の内容と、それを朗詠調で吟じられた耳新しさの印象が残りました。そして光野先生から詩文のコピーをいただきましたので、次に詩文の一部を掲載してみます。

原作・サミュエル・ウルマン

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。

以上が明詠された詩文の部分であるが、全文は大変長く、その中から特に次の部分が私の心をひいた。

年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。才月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしほむ。(中略)人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる。人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。

この詩を読むと、苦難に屈しない、人生に対する情熱の絶え間ないみずみずしさ、人間というものを信ずる素直で前むきの姿勢、これが青春を保ってゆく秘訣であることを美しく表現されている。最近の私はともすると年を考え、心を閉ざし気味であったが、そんな私の心をこの詩はひらいてくれたような気がする。多くの人に愛誦される詩ではなからうか。愛岳

練吟 文語余滴

○今回は明詠集所載の和歌(短歌)、俳句新体詩等の用語のうち、推量の意を表わす助動詞「む」について、少々検討してみたい。初めに明詠集から和歌と短歌の例

銀も金も玉もなにせむに
(万葉集) 山上 憶良

優れる宝子に及かめやも

天の戸の(昭48没) 小田 観蟹

天の戸の 真澄にならぶ 二つ星
百千の世まで 添ひてゆくらむ

○俳句は、例えば現代俳句で

火美し 酒美しや あたためむ 青邨

のように、短歌と全く同様文語調である。しかし、明詠集所収の十一句中中には「む」を使った句がないので例句は省略。

○次に新体詩

昨日にまさる恋しさの(一節)
(昭17没) 萩原朔太郎

生死の果の情熱の

恋さへそれと知らざらむ

○以上列記のとおり、和歌は万葉の時代から、俳句は江戸時代前期から、そして新体詩は明治初年から、いづれも現在に至るまで、ずっと文語調の伝統を承継し維持して来た。ところが言葉は年代を経るに従い変化を生ずるので、明詠集は学院内の統制と明詠者の便を考慮し、和歌・短歌にはひらがなの「読み方」を添え、長歌や新体詩には詩語にじかに読み替えのカナを付している。そのうちの一例がむをんと読み替え、またはむにんのルビを振っている。○「む」は、平安中期ごろからしだいに発

音上の変化を起していた(古語辞典・角川)が、以後しだいに「ん」とも表記するようになった。しかし、文語調の伝統ある詩歌にあっては、表記は依然「む」としているが、読みは「ん」であることはご承知のとおりである。

○海ならず(新古今) 菅原 道真

海ならず たゝへる水の 底までも

清き心は 月ぞてらさん

ひさかたの(古今) 紀 友則

ひさかたの 光のどけき 春の日に

静心なく 花の散るらん

右は明詠集所載の和歌であるが、筆者手持ちの古今集・新古今集で見ると「ん」でなく「む」である。権威ある監修が行われている教本のこと、んとむは発音や発声に相違があるのではないかと素朴な疑問を持つ会員が出ている事実もある。教本どおりというところ、いろいろ勉強させられる。

(退会取消し)

88 須藤星風(下山口) 63年12月に退会と記載されましたが退会取消しとなりました。

(退会)

408 森本喜泉(堀内・D)

463 鈴木たけ子(堀内・F)